第３学年分科会　　**提案発表**

東みよし町加茂小学校　島尾　美知瑠
三木　　史子

１　はじめに

本学年の児童は，絵をかいたりいろいろな材料で何かをつくったりすることが好きで，図画工作の時間を楽しみにしている。しかし，かいたりつくったりすることが苦手ですぐに教師に頼ろうとする児童や，どんな色や形をどのように表せばよいのか，発想の段階でなかなかイメージをもつことができていない児童もいる。

そこで，子供たち自身が「こんな感じを表したい」という思いをもって，楽しく生き生きと造形活動に取り組ませるためには，①題材や材料・用具との出合わせ方を工夫すること，②自分のイメージをもって表現につなぐ手だてを工夫すること，③自分や友達の表現のよさに気付く場の工夫をすることで，つくりだす喜びや達成感を味わわせることができると考え実践に取り組んだ。実践するに当たって，たくさんの友達とかかわり合うことでよりいっそう表現が豊かになると考え，1･2組合同（46名）で実践することにした。

２　指導の実際

（１）　題材１　『大クスには，きっとこんな生き物がすんでいるよ』〈A表現（2）立体に表す・Ｂ鑑賞〉

本題材は，土粘土のかたまりからつまみ出したりひねったりしながら，子供たちにとって親しみのある加茂の大クスに住んでいる仮想の「生き物」を想像し，立体に表す活動である。

①目標　ア　粘土を使って，自分が想像した「生き物」をつくることを楽しむことができる。
　　イ　「生き物」のイメージをもち，つくりたいものを考えることができる。
　　ウ　つくりたい「生き物」に合わせて，手や道具を使い，工夫して表現することができる。
　　エ　作品を見合い，作品のよさや工夫を感じ取ることができる。

②指導計画
　第１次　土粘土の感触を味わい，練ったり丸めたりするとともに，用具の使い方を知る。　・・・１時間
　第２次　大クスを見て，いろいろなイメージをもつ。　・・・２時間
　第３次　大クスに住んでいるだろうとイメージした「生き物」を工夫してつくる。　・・・２時間
　第４次　作品を飾り，友達の作品のよさや面白さ，工夫を見つけて伝え合う。　・・・１時間

（２）　題材２　『住んでみたい マイタウン』〈A表現（２）立体に表す・Ｂ鑑賞〉

本題材は，児童が住んでみたい「まち」をイメージし，粘土の形を変えながら表現していく活動である。

①目標　ア　自分の気持ちを込めた楽しい「まち」を想像し，粘土で表すことに取り組むことができる。
　　イ　表したい「まち」の様子が表れるように，組み合わせた形の面白さを生かして，建物などの配置を考えることができる。
　　ウ　自分のイメージに合わせ，粘土の加工や接合の方法などを工夫することができる。
　　エ　できた作品や町の中の様子について話し合い，表現のよさを捉えることができる。

②指導計画

第１次　住んでみたい「まち」を想像し，イメージをもつ。　・・・１時間
第２次　自分の思いを広げながらイメージした「まち」を工夫してつくる。　・・・２時間
第３次　でき上がった「まち」の特徴やよさを見つけて伝え合う。　・・・１時間

３　結果と考察

（１）題材と材料との出合いの工夫

題材１では，これまでに経験の少ない土粘土を使った。児童は，土粘土の冷たさやどろんこ遊びをしたときのように，手についた粘土が乾いていくことなど，油粘土や紙粘土との違いを味わいながら意欲的に取り組むことができた。しかし，かきべらや切り糸の用具に頼って，塊からひねり出すことができていなかったり,平面的な作品になってしまったりした児童もいた。用具の提示の仕方や，児童がいつでも見ることができる立体の見本を置くようにすれば，表現の仕方を考えることができたのではないかと感じた。

題材２では，これまでに習得したことを生かし，油粘土を使って自分がイメージした「まち」をつくった。空間認知の弱い児童も粘土を積み上げていくことができるのではないかと考え，この題材にした。題材１で平面的な作品になってしまった児童も今回は建物をイメージし，立体的な作品に仕上げることができた。しかし，平面的な作品に近いものになっていた児童もいたので声をかけながら立体作品になるように促した。

（２）自分のイメージをもって表現につなぐ手だて

題材１では，実際に大クスに行き，大きさや歴史をあらためて感じながら，そこに住む生き物のイメージを膨らませた。「周りが海で魚がいたかも」「森があって恐竜が住んでいたよ」など，生き物をイメージしてつぶやく児童がいた。更に話し合いを通して，イメージしたものをワークシートに描いた。しかし，絵や文で表現するのが苦手な児童もいた。そこで，本や動画を参考にさせたり，具体的に形や動物の能力を聞き取ったりすることで，自分なりの想像上の生き物をかくことができた。そして，生き物に名前を付けたことも，活動意欲につながった。また，活動の場をグループにして互いの作品を見合うことで，友達の作品のよさを取り入れたり，イメージを更に膨らませたりして，つくりかえていく様子が見られた。自分の見方や考え方が少し広がったのではないかと感じられた。題材２では，世界遺産やおもしろい形の建物を見せることで，イメージを広げることができなかった児童も,「こんなものをつくりたい」と，少しずつイメージをもつことができた。

（３）自分や友達の表現のよさに気付く場の工夫

題材１では，製作途中，教師がタブレットで児童の作品の工夫しているところなどを映し出したり互いに見合ったりすることで，友達の作品のよさを取り入れてつくりかえるなど，表現が豊かになっていった児童もいた。また，地域の「大クス祭り」の際に，大クスの周りに作品を展示して地域の方に見ていただき，多くの方から声をかけていただいた。このことは，子供たちの達成感や自信につながり，次の活動への意欲付けとなった。題材２では，友達の作品のよさを付箋に書いたり他学年の児童からも感想をもらったりした。どの児童も自分の作品を認めてもらい，更に自他の作品のよさに気付くことができた。

４　おわりに

粘土を素材にしたことで，子供たちは,「つくる」「つくりかえる」を繰り返しながら．自分の思いをもち続け，造形活動を楽むことができた。イメージを膨らますためには，普段の生活の中でたくさんのことを見たり聞いたりして，人やものとかかわることが大切だと感じた。これからも一人一人が自分の思いを表現し，楽しく活動ができるよう実践していきたい。